

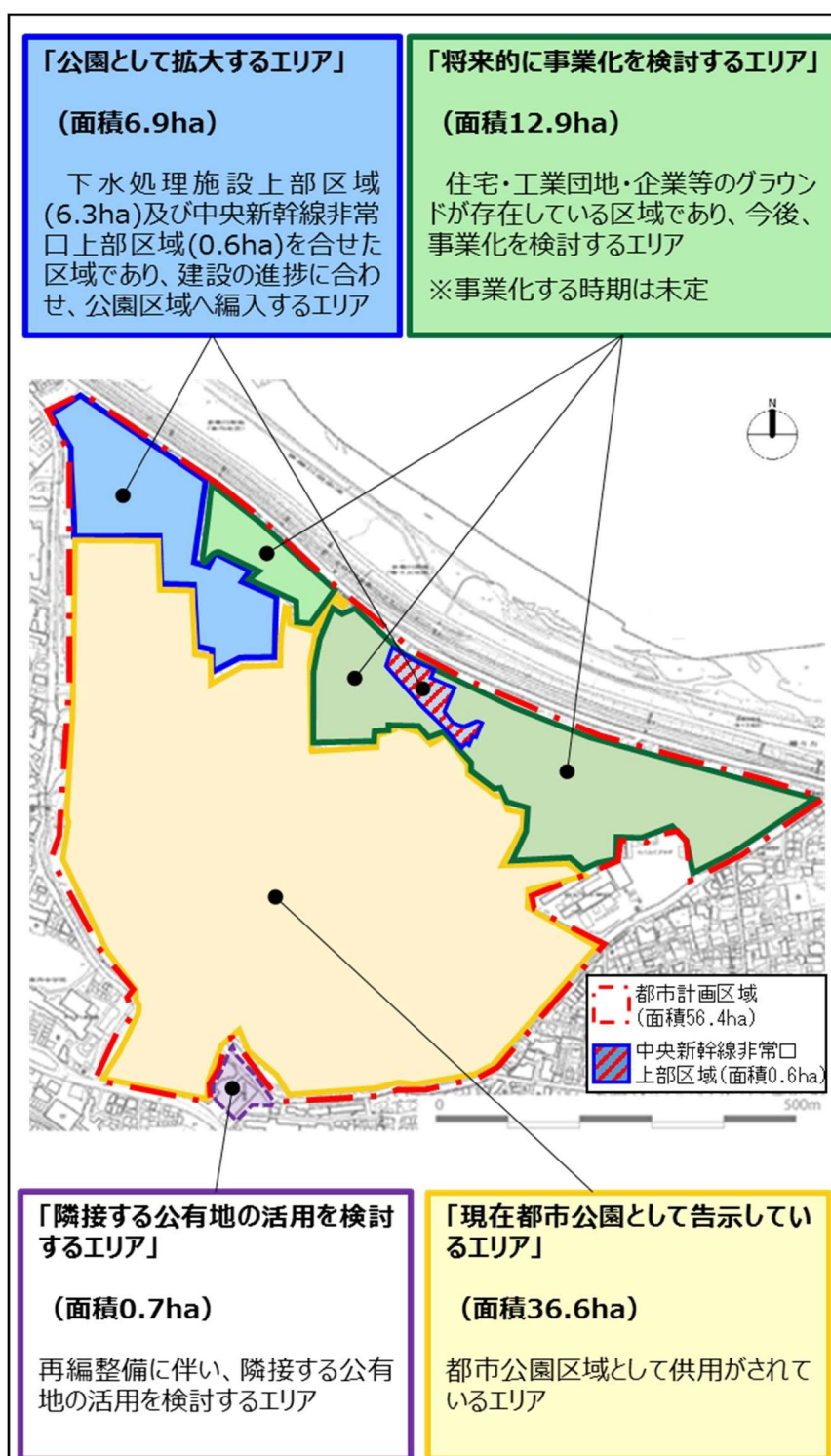
8 公園区域の拡大と多摩川緑地や隣接公有地の連携

再編整備実施計画の対象区域は、都市計画区域及び隣接する公有地を含めた 57.1ha とします。

本実施計画に基づく事業区域は、「現在都市公園として告示しているエリア」(36.6ha)に加えて、「公園として拡大するエリア」(6.9ha)を併せた **43.5ha** とします。

「隣接する公有地の活用を検討するエリア」については、現時点で事業区域には含めませんが、各施設の建替えの時期等を見据えて一体利用の可能性について引き続き検討していきます。

昭和 16(1941)年から都市計画区域として指定されている「**将来的に事業化を検討するエリア**」については、地権者などの理解と協力が必要となることから、本事業の進捗を踏まえながら、**将来的に事業化する時期を検討**していきます。



9 緑地全体の再整備

(1) 緑と水の再編

緑と水に関しては、実施計画を継承し、区域の拡大等を踏まえ以下のとおり再編を進めます。

ア まとまりのある緑の保全

「ふるさとの森」、「21世紀の森」、「四季園」、「釣池」の周辺など、**まとまった緑を保全**するとともに、**生物多様性に配慮した良好な緑地環境を創出**します。

イ 水辺空間の保全とふれあえる場の創出

水辺空間を保全するとともに、**水とふれあえる場を創出**します。また、**水辺や並木の整備**により緑地内及び多摩川への**動線の魅力を高めます**。

ウ 緑のオープンスペースの創出

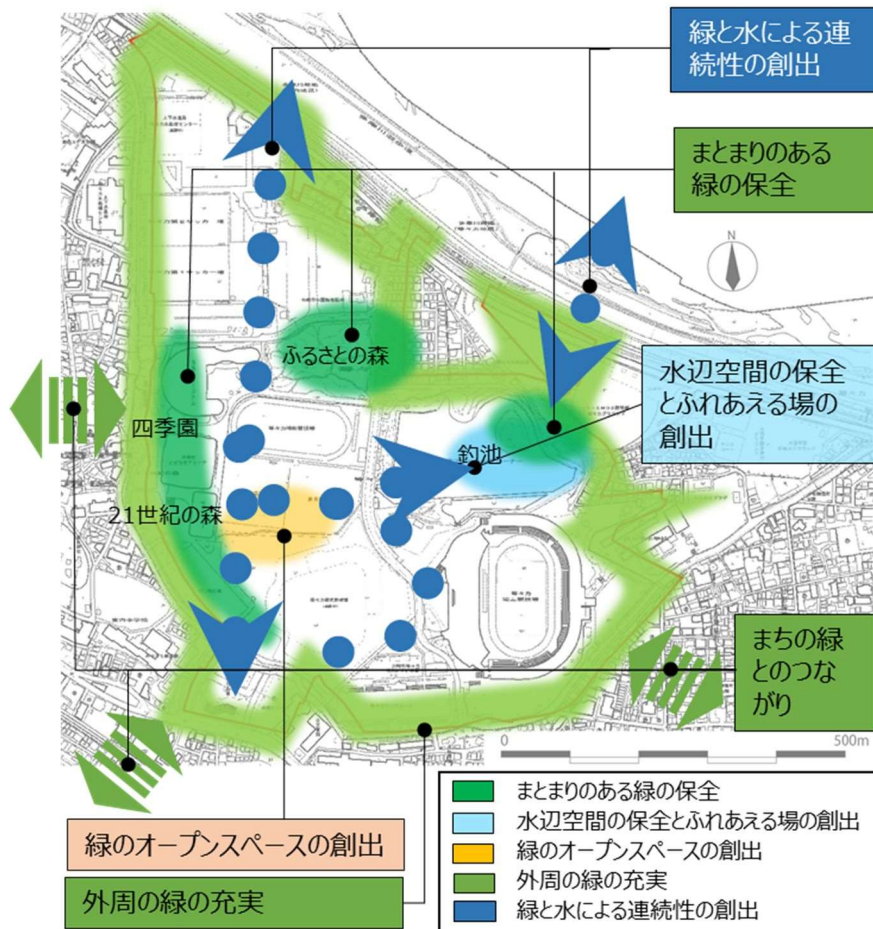
まとまりある芝生広場の整備を行い、自由に寛ぎ、子どもたちがボール遊びを楽しめ、イベント等を開催できる空間を創出します。

エ 外周の緑の充実

安全・安心な災害時の広域避難場所として、**外周の緑の保全と創出**を図るとともに、延焼防止に寄与するよう整備を行います。また、外周部の緑を充実することでまちの緑との連続性を確保します。

オ 緑と水による連続性の創出

緑地内動線の整備に合わせて、水辺や並木などを整備し、緑と水の連続性の創出を図ります。

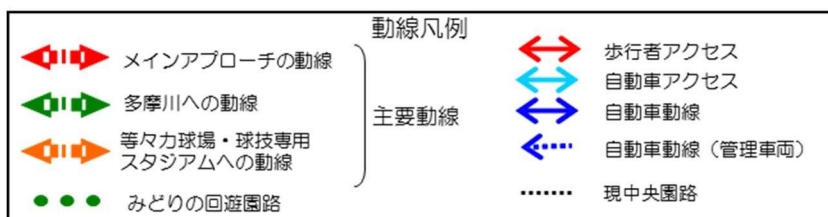
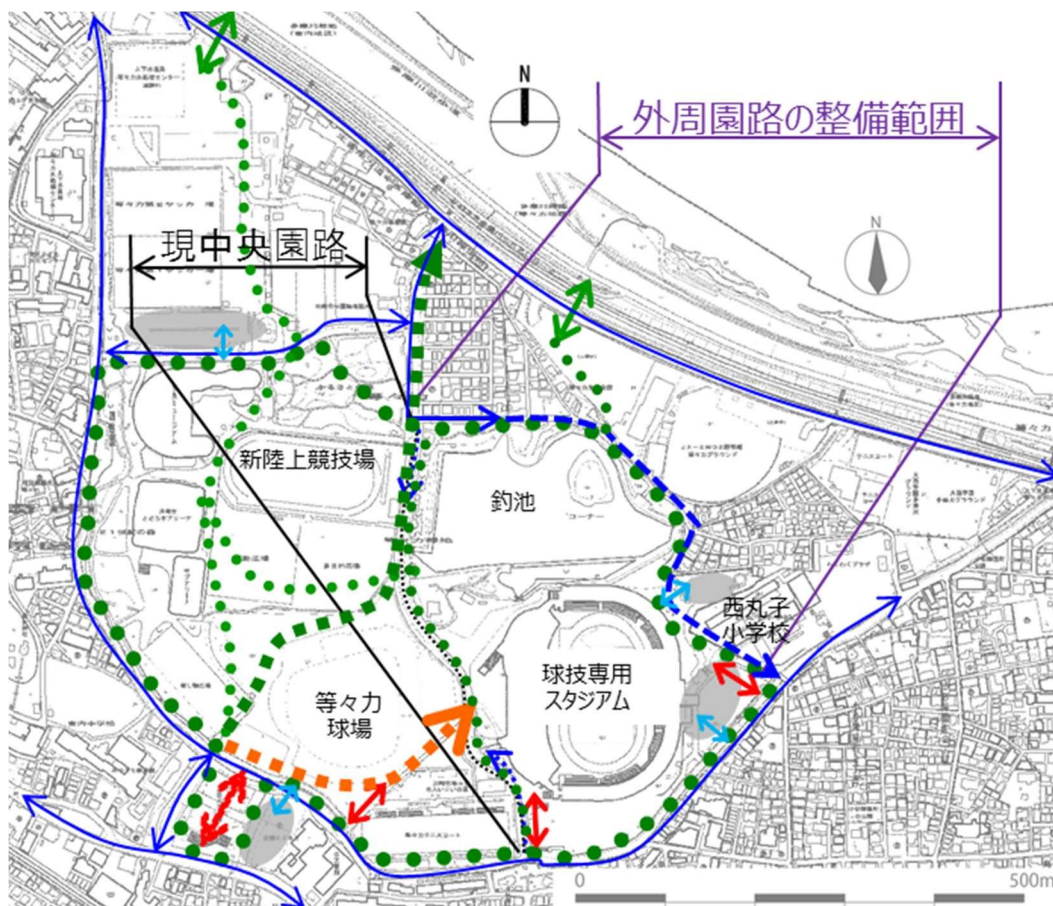


緑と水の再編整備のイメージ

(2) 緑地内動線の再整備

実施計画においては、安全かつ円滑な緑地内の歩行者動線、自動車等動線を確保するとともに、施設間のわかりやすい動線を整備し、施設利用の活性化や利便性の向上を図るとしており、中央園路については、道路法に基づく認定を廃止し、Jリーグ等イベント開催時のみ一般車両の通行を禁止しています。

今後、公園の安全・安心な空間の確保や公園中央部の分断の解消、柔軟な施設配置を行うため、中央園路の一般車両の通行を禁止し、車両の通れる外周園路の整備を行います。



敷地内の動線の再整備のイメージ

(3) 防災機能の強化

地域防災計画上の位置づけを継承し、グリーンインフラの活用として既存の防災機能の維持・拡充を図るとともに、令和元年東日本台風による浸水被害や頻発する自然災害を踏まえ、災害廃棄物保管場所や応急仮設住宅の設置など多様な利用ができるオープンスペースを確保します。また、釣池やグラウンド等については、「雨水貯留機能」としての活用を図ります。

ア 既存の位置づけ

既存の地域防災計画上の位置づけは次のとおりとなっていますが、施設の再整備の進捗を踏まえ、役割を継承・強化していきます。

| 地域防災計画上の位置づけ | 場所 |
|----------------|----------------------------------|
| 広域避難場所(地震・火災) | 等々力緑地 |
| 遺体安置所 | とどろきアリーナ |
| ヘリコプター臨時離着陸場 | 補助競技場、多目的広場、催し物広場 |
| 自衛隊の活動拠点 | 多目的広場、陸上競技場 |
| 消防機関の活動拠点 | 催し物広場、テニスコート、等々力球場 |
| ライフライン事業者の活動拠点 | 会館とどろき、南駐車場 |
| 警察の活動拠点 | 陸上競技場、東駐車場 |
| 備蓄倉庫 | 陸上競技場内、等々力球場内 |
| 災害時応急給水拠点 | 正面広場(会館とどろき横) |
| 救援物資市集積場所 | 陸上競技場(バックスタンド室内走路) 等々力球場屋内練習場 |

イ 公園における防災機能の再整理

・緑地内のオープンスペースは、災害時の避難や救援活動・物資受け入れ等の拠点に加えて、災害廃棄物保管場所や応急仮設住宅の設置場所として活用することが想定されています。具体的な位置や範囲については、災害の状況等により判断することになりますが、多様な活用が想定されるオープンスペースを施設の再編に合わせて確保します。

・緑地外周部は、延焼防止の効果があることから、植栽を充実させます。

・公園内の施設は、既存の防災機能の維持・拡充を図るとともに、災害の状況等に応じて、災害時の避難場所等として柔軟に活用することを施設の再編に合わせて位置づけていきます。

ウ 新たな機能の位置づけ

雨水貯留機能や、災害時の緊急的な避難機能としての活用を図ります。

| 機能 | 場所 |
|--------------|--------------------------------------|
| 雨水貯留機能 | 釣池、グラウンド等 |
| 災害時の緊急的な避難機能 | 現陸上競技場メインスタンド 球技専用スタジアムサイドバックスタンド |



釣池やグラウンドを活用した貯留機能

(4) 「新たな日常」を踏まえた役割の実現

令和 2(2020)年 8 月に国土交通省が公表した「新型コロナ危機を契機としたまちづくりの方向性」の論点整理においては、「緑とオープンスペースの重要性の再認識、テレワーク、テイクアウト販売への活用といった地域の多様なニーズに応じて柔軟に活用する、活用を支える人材育成、ノウハウの展開等」が必要であると整理されるとともに、具体的な方策については、令和 3(2021)年 4 月に中間とりまとめが行われました。これらを踏まえ、等々力緑地においては、次のような取組を民間事業者と進めます。

ア 緑とオープンスペースの重要性の再認識

新型コロナ危機を契機として、自宅で過ごす時間が増え、身近な自然資源として、運動不足の解消・ストレス緩和の効果が得られる場として、オープンスペースの重要性が再認識され、緑とオープンスペースは、テレワーカーの作業場所、フィットネスの場所となる等利用形態が多様化しています。また、災害等の非常時に対応するためのバッファー機能として、都市の冗長性を確保する観点からも役割が増大しています。また、オープンスペースを有効に活用するため、エリアマネジメントの中心的な存在として、信頼できる中間支援組織の存在、効果的に活用するための人材育成の必要性も高まっています。



広場に子どもの遊び場を設置

子どもたちで賑わう公園



広場でくつろぐ



「働く」をテーマにしたトークイベント



球場における映画鑑賞



コワーキングスペース

新たな生活様式を踏まえたイベントの実施

イ 多様なストック効果をより高める公園利用

水辺や広場と一体となった飲食・物販店等を官民連携により整備することや、水辺と広場を活用したイベントを実施することで賑わいを創出する取組を進めています。



官民連携による整備事例
(名古屋市久屋大通公園)



多様なストック効果をより高める公園利用
(ヨガイベントの開催)

ウ デジタル技術を活用した都市サービスの提供

公園における ICT の活用として、AI を活用した施設点検や体験サービスの提供、画像解析による来店者の分析などの実験が進められています。本市の取組としては、スマートフォンや PC から公園等の損傷を通報できる実証実験を行っており、ICT 技術を活用した維持管理運営等の検証が行われています。

ICT 技術を活用し、園内の利用状況やイベント、花の見ごろなどの情報を積極的に発信するとともに、利用者から不具合箇所の通報を受けるなど、利用者へのサービス向上を図ります。

また、無人バスや MaaS の取組の導入可能性について民間事業者へヒアリング等を行い、等々力緑地の内外のアクセスの改善等も検討します。



QR コードを活用したイベント時の情報発信やアンケート調査

無人バスの試験状況

(5) 多様な主体との協働による公園の魅力向上

等々力緑地や多摩川で活動する市民ボランティア等と連携し、花壇づくりや市民ボランティアによる野鳥観察会等の活動を通じ、**市民協働による公園の魅力づくり**を進めます。

川崎フロンターレなどの**かわさきスポーツパートナー等と連携し、地域コミュニティの強化や市民に喜ばれ、親しまれる賑わいの場を創出し、市民の笑顔があふれる公園を目指します。**



花壇ボランティアの活動



とどろき水辺の楽校の活動状況



試合時の防災意識の向上イベントへの協力



試合時の賑わいの創出

10 公園全体の再編イメージ

公園全体の再編イメージは、これまでの検討を踏まえた将来的な公園のイメージであり、各施設の配置規模等については、今後、PFI 法に基づく事業者公募において、提案を求め事業を進めます。

(1) 将来的な公園のイメージ



| 番号 | 施設名 | 番号 | 施設名 | 番号 | 施設名 | 番号 | 施設名 | 番号 | 施設名 |
|----|-------------|----|------------|----|-------------|----|-------------|----|--------------|
| ① | 球技専用スタジアム | ⑦ | テニスコート | ⑬ | 駐車場 | ⑰ | 中央広場 | ⑲ | 魅力ある園路 |
| ② | (新)等々力陸上競技場 | ⑧ | 第1、第2サッカー場 | ⑭ | 運動広場・多目的広場 | ⑳ | プール | ㉑ | ビジターセンター |
| ③ | 等々力球場 | ⑨ | ふるさとの森 | ⑮ | 正面広場 | ㉒ | ストリートスポーツ広場 | ㉒ | 民間提案に求める施設機能 |
| ④ | 釣池 | ⑩ | 四季園 | ⑯ | (新)とどろきアリーナ | ㉓ | 屋内遊戯施設 | | |
| ⑤ | 子どもの遊び場 | ⑪ | 21世紀の森 | ⑰ | スポーツセンター | ㉔ | 多摩川との連絡路等 | | |
| ⑥ | 催し物広場 | ⑫ | 桜の園 | ⑱ | 芝生広場 | | | | |

将来的な公園のイメージ

(2) 公園全体のイメージパース



(3) イメージパース

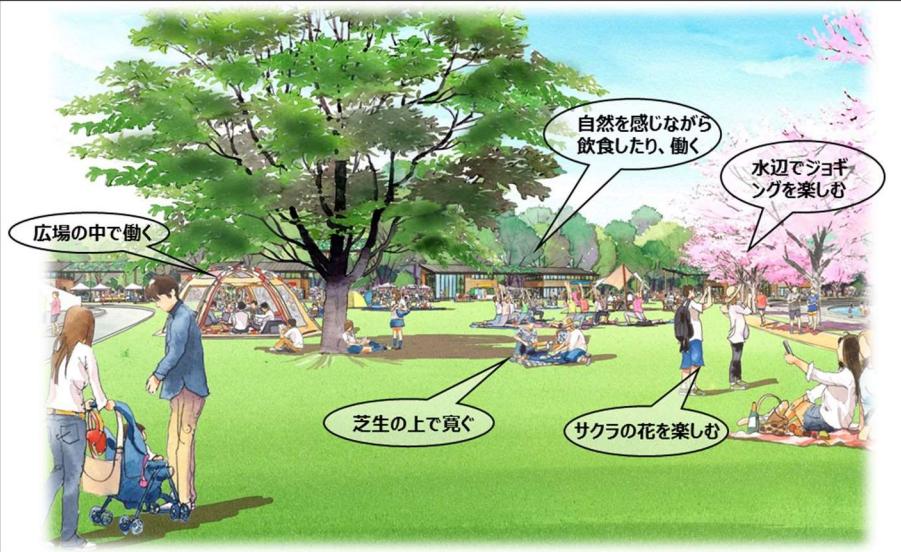
多摩川側からの視点

- ・既存のサッカー場の周囲に、広場が整備され、野球や少年サッカーなどの活動が行われている。
- ・多摩川と緑の連続性が確保され、散歩やジョギングを楽しんでいる。



等々力球場と(新)等々力陸上競技場間の芝生広場の視点

- ・芝生広場が整備され、子どもたちが自由に遊び、ヨガ教室なども開かれている。
- ・広場の周囲には、飲食店が建ち並び緑の中で市民が自由に時間を過ごしている。
- ・桜並木が整備され、散歩やジョギングを楽しんでいる。



等々力球場側から中央広場を俯瞰する視点

- ・中央広場は、様々な活用が行われ、賑わいが創出されている。

